

平成30年度 第3回 日進市子ども施策推進委員会 議事録

日時 平成31年3月18日(月) 午前10時から

場所 日進市役所南庁舎2階 第5会議室

出席委員 白石淑江、津金美智子、高田由紀、磯部尚美、齋藤由美、牛田由美子、岡田美穂、
森岡有紀、青柳信弥、西田進太郎、中村正美

欠席委員 増井澄満子、友松守彦

事務局 子育て支援課 石川課長、三好補佐、鳥居係長
こども課 廣瀬主幹、井筒係長

傍聴可否 可

傍聴有無 有(1名)

<次第>

・あいさつ

・議題

(1) 平成31年度特定教育・保育施設の利用定員について

(2) 特定教育・保育施設等の整備について

(3) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果について

・その他

<議事録要旨>

・あいさつ

【委員長】(あいさつ)

・議題

【委員長】議題(1)平成31年度特定教育・保育施設の利用定員について及び議題(2)特定教育・保育施設等の整備について、関連して説明をお願いします。

【事務局】(説明)

【委員長】3歳までの利用希望が多く、受入を拡充しますが、これで待機の方はいなくなりますか。

【事務局】2月の審査時点でもご案内できていない方は実際にいます。これだけで完成というわけではなく、平成31年度事業としては平成32年度4月開園に向けた新たな整備を進めていく中で拡充を予定しています。

【委員長】続いて、議題(3)の第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】(説明)

【委員長】まず、未就学児の保護者を対象としたニーズ調査結果からお願いします。

【委員】問13、問14-5は今の状況を表しています。小さい年代から働きたい保護者が増えており、保育施設等の整備について、量の拡充とともに質の向上が重要になってきます。

【委員長】質の向上も今後計画で検討していただきたいと思います。無償化の情報はいかがですか。

【事務局】2月に説明会がありましたが、詳細部分は今後という状況です。また、量の拡充と共に質の向上という点については、公立園の園長と民間施設の園長との交流の機会を増やしていくこ

と併せて保育士の研修強化も考えています。

- 【委員長】 預かり保育も含めて幼稚園の利用希望が高いというのは3歳以上であり、3歳未満のニーズについては、年齢別で見えていかないとわかりにくいと思います。今後、施設整備の際には定員の枠を年齢別で検討しますか。
- 【事務局】 今年度新たに保育所整備を行うにあたり、年齢別に定員を確保できることを条件に公募し、選定させていただいています。また、認定こども園に移行する幼稚園についても、0歳、1歳、2歳児の枠の確保について協議させていただき、確保させていただいています。
- 【委員長】 利用定員について、どの辺りの枠を広げていくというのはありますか。
- 【事務局】 就労したい年齢などの細かい数字が今回のニーズ調査にありますので、こうした数字などから考えていくことになると思います。
- 【委員長】 計画策定時にはそうした細かい数字も出していただくようお願いします。
- 【委員】 一時保育について、週3日保育で一時保育を1年間利用して、1歳、2歳児の保護者がパート勤務している他、本当に困っている一時保育を必要とする方が利用できないということも聞いたことがあります。また、週3日保育の実施環境が通常の保育環境より良くありません。
- 【事務局】 今後の課題とさせていただきます。また、現場の方も確認させていただきます。
- 【委員長】 ニーズ調査では見えないところも検討していただきたい。不定形の利用については、結局入所できないから不定形にしているという場合もあります。
- 【委員】 福祉の計画かもしれませんが、障害児保育について、障害を持っている子どもの保護者に対するニーズ調査があると良いと思います。
- 【事務局】 今回のニーズ調査について、障害に関する調査データはありません。
- 【委員長】 次期の計画策定にあたっては、そうした家庭のニーズ等にも配慮しないといけないと思いますが、類似データはどう入手しますか。
- 【事務局】 すくすく園や保健センター等から個別の意見を吸い上げたいと思います。今回のニーズ調査は保育と放課後のアンケートが中心となっているため、障害の有無に関係なく全体の保護者のニーズとして捉えていただきたい。
- 【委員長】 すくすく園でアンケートなどがあれば参考にしていきたい。
- 【委員】 問28と問33について、問28では放課後児童クラブを利用する必要はないという回答が66.7%ある一方で、問33では放課後児童クラブなどの充実が一番多くなっています。このズレはどう受けとめたらよいでしょうか。
- 【事務局】 正直なところ未就学児の保護者であり、小学校の放課後児童クラブまで考えが至らない方も多いかと思います。
- 【委員】 問18について、親子教室の利用が前回より低くなっています。人数の数値を上げようとすると質が落ちる部分もあり、このあたりがセンター事業の課題でもあります。数値だけでは計れない部分にも目を向ける必要があると思います。
- 【委員長】 評価の仕方として到達目標の数値だけではありません。
- 【委員】 わかりやすい数値として必要ですが、人数の増加だけでは解決できない部分もあります。
- 【委員】 支援する内容で評価できるようにしたいと思いますが、評価シートが難しいです。次期の計画では人数以外の評価指標を考えていただきたいと思います。質を高める必要がありますので、そうしたことを踏まえた指標がほしいと思います。
- 【委員長】 次回の課題とし、評価方法についてご提案いただけると良いと思います。今後の幼稚園のニ

ーズはどう考えますか。

【事務局】本市の幼稚園ニーズは保育と同じようなボリュームで高い状況です。認定こども園に移行していない園がほとんどですが、幼保連携型の認定こども園化への動きも本市として引き続き支援していくという流れも含めて、充足していくことが大切であると考えています。

【委員長】認定こども園のニーズをどの程度の目標値にするのか難しいところです。

【委員】幼稚園のニーズも高く、預かり保育も含めて69.6%あり、無視できない状況です。

【委員長】続いて、就学児童の保護者に対する調査結果についてはいかがでしょうか。

【委員】問7について、気軽に相談できる人がいないという方が8.4%と微増しています。こうした方への対応はどのように考えていますか。貧困の方もいないわけではないため、こうした方への配慮も手厚くしてほしいと思います。

【委員】教育委員会にはスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」という。）が3人おり、3つの中学校区に配置され、行政と地域と保護者をつなぐ役割を果たしています。案件に対するSSWが十分とは言えないため、人数を増やしながら保護者と学校、保護者と行政をつなぐことができるような役目を果たせるようにしていきたいと思います。

【委員長】SSWが配置されていない市町村もある中で、3つの中学校区に配置されているということで、つなぎの機能が期待できると思います。普段はどちらにいらっしゃいますか。

【委員】日進西中、日進東中、日進中に籍があり、小学校を巡回して相談を受けたり、実際に家庭訪問を行っています。

【委員】放課後等デイサービスの日数が4月の入学当初に支給されない方が多くいます。放課後子ども教室を案内され、療育の機会が奪われる場合もあります。全く問題が無い場合は少ないと思いますので、何かしらフォローしてもらいたいと思います。小学生で障害のある子どもの放課後ニーズの実態把握はどのようになっていきますか。

【事務局】放課後児童クラブでは障害があるから受け入れないということはありません。ただ、放課後児童クラブは就労支援が大前提ですので、例えば今後ニーズが高ければ障害がある子どもの受入枠などの検討をしていきたいと思います。また、放課後等デイサービスのニーズについては、障害者の計画でニーズ量を出していると思いますので、そちらと突き合わせていくこととなります。

【委員長】放課後子ども教室を案内されてしまうという部分はいかがですか。

【事務局】放課後等デイサービスについては利用日数の上限があり、それ以外の部分を放課後子ども教室などでカバーしているのが実態だと思います。

放課後児童クラブは療育ではないため、療育の延長にはなりません。保護者の方と話しながら、それでも良いということであれば受けて入れていくことになると思います。

いずれにしても行政とのパイプ役という事でお子さんに相談員がつかますので、そちらとも連携しながらお子さんにとって一番良いものを支援していくのがあるべき姿だと思います。

【委員長】ニーズ調査で出せる内容では無いため、計画の調整をどのようにしていきますか。

【事務局】障害者の計画で算出されている数字があると思いますので、こうした数字を活用し、どうしていくかという部分を子ども子育て支援事業計画で考えていくこととなります。

【委員】問12で放課後児童クラブを利用していると回答した数を教えてください。

【事務局】119人です。

【委員】未就学児の調査結果において、保育ニーズが高まっているので、当然放課後児童クラブのニ

ーズも高まっていくという認識との話がありましたが、それについて調査結果による裏づけが得られるのかをお聞きしたい。

- 【事務局】最終的にはニーズ量を把握しますので、現在の供給量で将来的に箇所を増やす必要があるとか、定員を増やす必要があるというものを数字で表していくことになります。
- 【委員】放課後子ども総合プランについて、前回の計画が策定された後に出てきたものであり、次の計画策定ではきちんと議論に乗せていただけたらと思います。また、未来をつくる子ども条例の認知度が非常に低い数字のため、知っているという人を増やしていくということで活動の成果がわかりやすいです。ちなみにこの質問は小学生だけに聞いていますか。
- 【事務局】貧困も含めて質問数の少ない小学生の保護者にだけ聞いています。今年が条例制定10周年ですが、今回お聞きしたのはちょうど間の世代になります。また、転入者が多く、条例が出来ているということを知る機会がありません。
- 【委員】小学生の施策は放課後児童クラブだけでは無く、もっと広い内容があると思いますが、その他の施策についてはいかがですか。
- 【事務局】今後どのような施策が必要だと考えていますかという質問をしています。回答としては、放課後児童クラブ・放課後子ども教室などの充実が49.1%、安心して子どもを遊ばせることができる公園などの整備が41.7%、子連れで外出しやすい施設やまちの環境整備の推進が25.1%となっています。
- 【委員長】問13-3で、小学校4年生以上でも放課後児童クラブを利用したいという方が73.1%あり、上の学年のニーズもあると思われます。子どもの遊び場、公園が少ないので逆に放課後児童クラブを利用したいということもあるかもしれないため、次の計画でこうした部分もカバーできればと思います。
- 【委員】未就学児、小学生共に質問されている内容で、気軽に相談できる人はいますかという問いに対して、未就学児は4.4%。小学生は8.6%がいないという回答です。市全体で考えると相当数いると思われますが、貧困の方もいるとすると、負のスパイラルではないかと想像します。また、相談窓口の情報がスマートフォンでわかりやすく得られることが重要だと思いますがいかがでしょうか。
- 【事務局】未就学児は子育て支援センターなどで気軽に相談できる場面があります。小学生は担任の先生が最初の相談相手になりますが、そこまでのものではないというのもあるかと思います。今、重要なのはどこにも関わっていない子どもであり、どこかに関わっていればフォローできます。また、スマートフォンで情報発信している自治体が増えていますので、遅れないようにしたいと考えています。
- 【委員】現在のWebふあまっぷについて専門家に聞くと、Webでアプリに似た状況を作ることができるようですので、まずはWebから新しくしていきたいと思います。皆さんにも見ていただいて、ご意見をいただきたい。
- 【委員長】学齢期の保護者が利用できる情報も入れてほしいと思います。
- 【委員】今度は建物だけではなく、子育て相談のような内容も載せられると良いと考えており、こうした情報が子育て支援課に集まってきたら配信するという形のシステム作りが出来ると、学齢期の方にも対応できると思います。
- 【委員長】包括支援センターがあるので、包括支援センターとしての発信が、乳幼児期から学齢期までの情報発信が出来るので良いと思います。そうすると学齢期の情報も入り、発信できます。

S S Wの配置について、日進市は多い方ですか。

【委員】 大体の市町はS S Wがいます。教育委員会に籍をおいて巡回している市町もありますが、日進市では中学校区に配置して巡回しています。

【委員長】 保護者にとっても身近な存在になるともっとスムーズに行くと思います。今後は連携が重要になりますので、次期計画で検討できると良いです。

【委員】 児童館でも学齢期の座談会のようなものがあればと思いますので、児童館の実施事業を増やせると良いと思います。

【委員長】 児童館事業に関するニーズ調査は含まれていますか。

【事務局】 今回のニーズ調査ではありません。児童館は子どものみで利用することを対象にした事業を実施していますので、学齢期の保護者を対象とする事業も今後の課題として考えられます。保護者が気軽に利用できる施設ですので、そうした役割もあるかと思います。

【委員】 子どもの貧困について、学習支援が必要であると考えていますが、どうでしょうか。

【事務局】 今回は貧困の割合を把握しようということで実施しています。子ども食堂と学習支援が2本柱ですが、子どもの貧困はお金だけではなく、いろいろな機会が無い、学べないということもありますので、いろいろなご意見をいただきたい。

【委員長】 学習支援は具体的にはいかがですか。

【事務局】 地域福祉課がおさらい教室として、基礎を復習させる機会を提供しており、シルバーの元教員などが教えています

【委員長】 高校受験のための塾代の費用負担などはいかがですか。

【事務局】 そうしたことに取り組んでいる市町もあります。

【委員】 学習支援を考えている事業者は困っている人へアクセスしにくい状況です。できれば先程のS S Wなど相談支援の先に、学習支援や子ども食堂等の紹介があると望ましいと思います。

【委員長】 他の市町では、そうしたことを子育て世代包括支援センターが教育委員会もつなぐ形で実施しています。せっかく子育て世代包括支援センターが出来たので次期計画ではそうしたことも入れていきたいと思います。

【委員】 障害のある方向けのセンターは別ですか。

【委員長】 障害のある方への支援も入れていくと乳幼児期からの支援がスムーズにつながり、療育機関との連携も可能です。全体を見ながらつないでいく仕組みですが、かなり時間をかけてやらないといけないですし、コーディネーターも増やさないとできないかもしれません。

【委員】 ずっとつながる形で、切れ目の無い支援がこれから重要視されます。

【委員長】 そのためのセンターが子育て世代包括支援センターです。

【委員】 いろいろなところがネットワークをつなぎながら、気軽な相談場所の先に支援がつながると良いと思います。

【委員長】 ニーズ調査だけでは見えない部分もありますので、細かいところも検討しながら策定に取り組みたいと思います。それでは、その他ということで事務局からお願いします。

【事務局】 (今後の計画策定に係る流れを説明)

次回の委員会は6月ごろの開催を予定しております。日程が決まり次第、皆様にお知らせいたしますので、よろしくお願いします。それではこれで第3回子ども施策推進委員会を終了します。本日は、ありがとうございました。

(閉会) 午前11時45分